

ぶらたなす

NO.8

長月

(ながつき)

長井高等学校

図書委員会

図書館

2021. 11. 30

読書の世界 入門術



みなさんは授業などで読書をする機会があっても、ついつい飽きてしまったり、そもそも本に興味がなかったりして読書を嫌いになってしまっていないですか。

読書は今よりたくさんの知識や考えを広げて人生観に更なる彩りを加えます。そういったことを考えると読書を好きになりたくなると思うのですが、いかがでしょうか。

読書を好きになるポイント1

好きなものや事柄を読書に結びつけてみる。アニメやイラスト、映画、料理、工作など。まずは自分の興味があるものを読んでみて読書に入るきっかけづくり。自分の好きなものなら、きっと楽しい気持ちで読める。

読書を好きになるポイント2

毎日でなくとも、2日に一度くらい10分程度本と触れ合ってみる。読書を苦手なものとして捉えてしまう理由として「長時間」ということが挙げられる。はじめのうちは10分程度という短い時間から始めてみては、「好きなものを短い時間から読んでみる。」これが私の考える読書への入門術。

読書は苦手意識が持たれやすいようですが、本を読むという行為は、著者の考えを覗いてみるという意味でとても面白いことだと思います。ですから、この面白さに気がつきたいと思った方は、ぜひこの方法から始めてみてください。

(1-3 船山 天寧)

図書委員のおすすめの本

『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん：著



みなさんに「推し」はいますか。また、その「推し」は自分にとってどんな存在でしょうか。

この本は「推し」の存在があることによってそれを生きがいにしている女の子が主人公の本です。

ある日、その「推し」がファンを殴り炎上するところからこのお話は始まります。「推し」が何か失敗してしまったらファンを辞める人もいます。しかし、主人公の女の子は「推し」を推し続けます。現実逃避に見える部分もありますが、自分と共通する箇所もあるので非常に面白いです。「推し」に操られているような描写がとても魅力的です。

内容だけでなく、表現ひとつひとつにも感銘を受ける本です。

(1-3 廣谷 凜音)

図書館のおすすめ本

『新格差社会』

山田昌弘：著 朝日新聞出版

書名にもあるとおり、本書からは現代における新しい「格差」の現実を読み取ることができる。内容は家族格差、教育格差、仕事格差、地域格差、消費格差の全5章で構成されている。

「格差」は生徒のみなさんに直接関わる問題として、また小論文を書くにあたって、非常に重要な社会問題といえる。

また、わたしたちが広がる格差から目をそらし続けてきた平成も終わり、現代はなかったことにはできない時代に直面している。著者は日本が階級社会に陥る前に「格差」という問題について直視すべきと語っている。みなさんはどう考えていくべきか。それぞれに聞きたい。